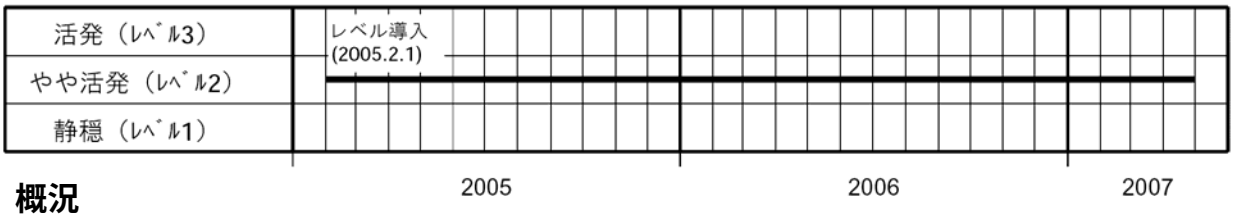
口 永 良 部 島

○ 火山活動評価：やや活発な状況（レベル２）

火山性地震や火山性微動がやや多く、火山活動はやや活発な状態で経過しました。
2005 年２月１日の導入以降、レベル２が継続しています。

火山活動度レベルの推移



○ 概況

・噴煙活動

監視カメラでは、11 日と 19 日に新岳から 10mの噴気が観測されました。古岳からの噴気は観測されませんでした。

・地震、微動活動（図２、図３）

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 127 回（３月：191 回）でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。火山性微動は、2006 年 10 月からやや多い状態が続いており、月回数は 57 回（３月：52 回）でした。

・地殻変動（図４、図５）

GPS 連続観測では､昨年９月以降見られていた新岳の膨張を示す傾向は､昨年 12 月以降鈍化し、今期間も同様の状態が続いています。

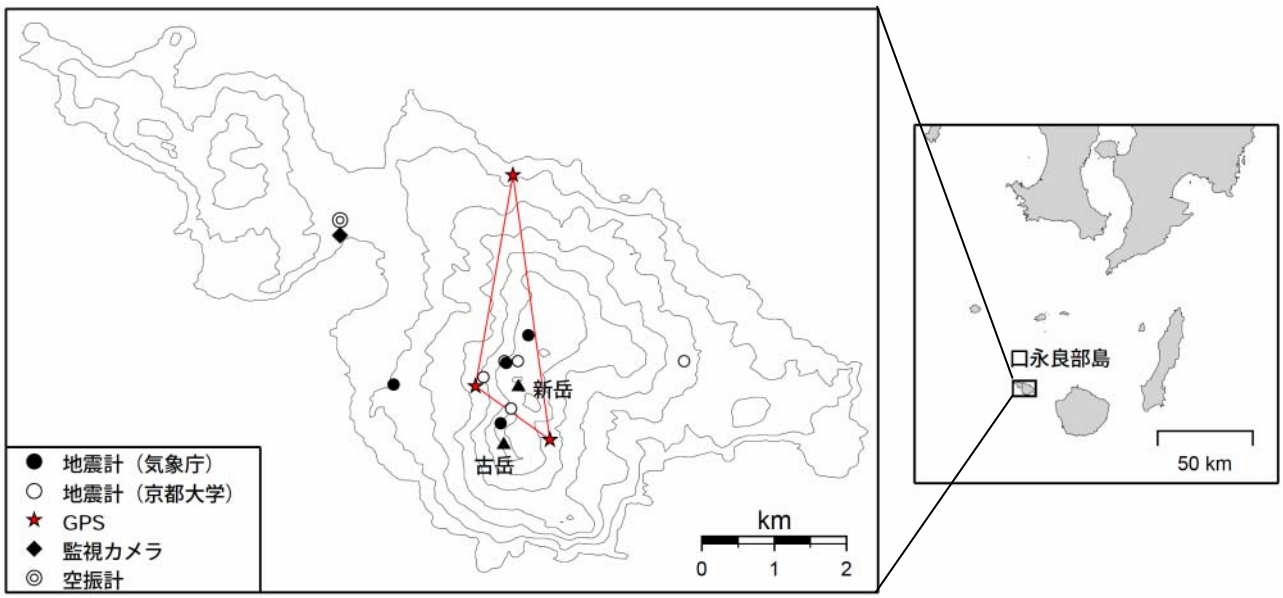


図１　口永良部島　観測点配置図

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータを利用して作成しました。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

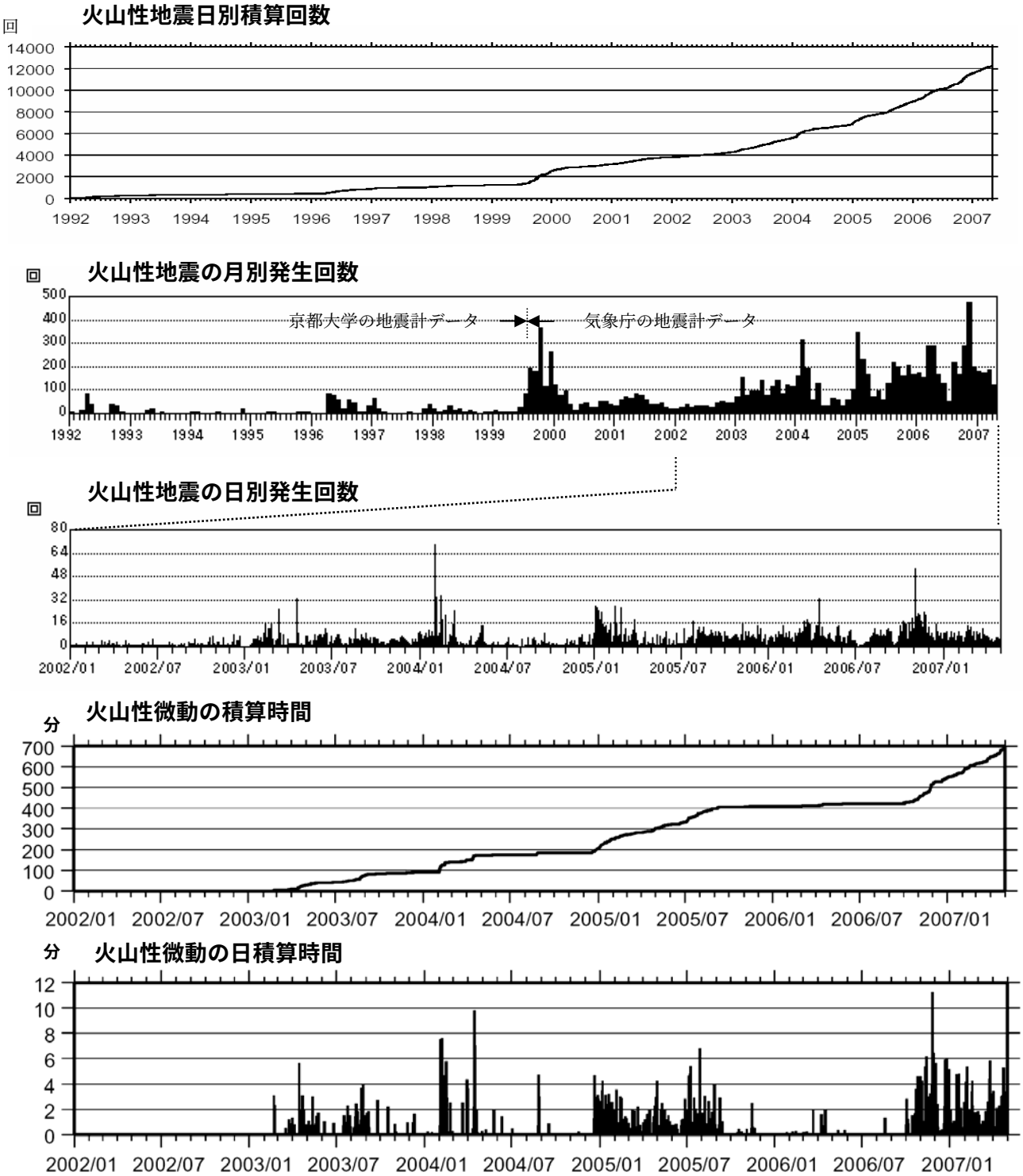


図２　口永良部島　火山性地震・微動活動経過図(1992年１月１日～2007年４月30日)

・2005年７月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

・火山性微動は2003年２月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

＊1982年１月１日～1999年９月12日及び2005年12月15～28日までは京都大学のデータを使用しました。

＊2002年12月22日～2003年１月11日まで地震計１の機器障害のため欠測しました。また、2005年７月９日～９月18日、2005年11月５日～12月14日までは地震計１の機器障害のため、地震計３で回数を計数しました。

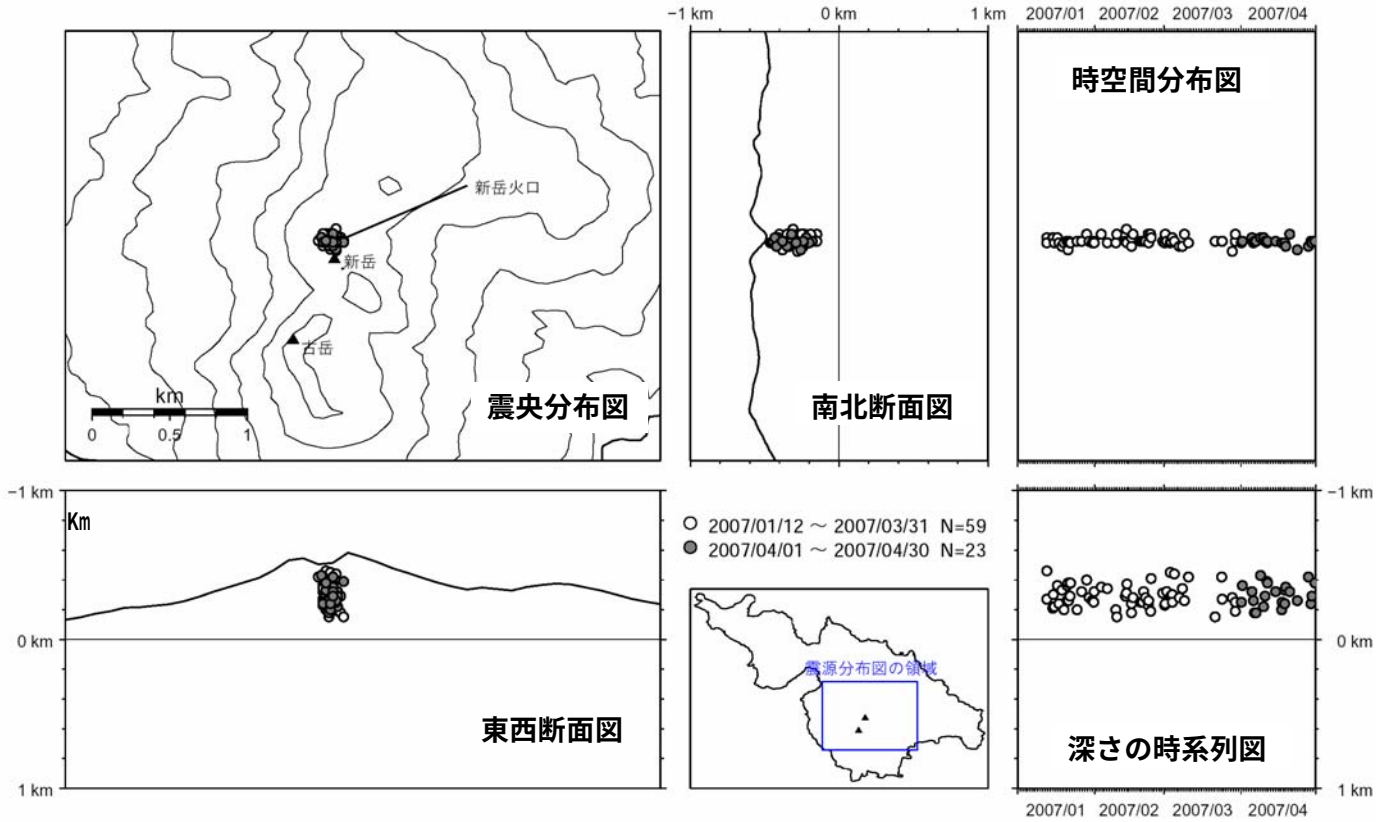


図３※　口永良部島　震源分布図(2007 年１月 12 日～４月 30 日)

・火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

＊１月 12 日から京都大学のデータを使用開始しました。

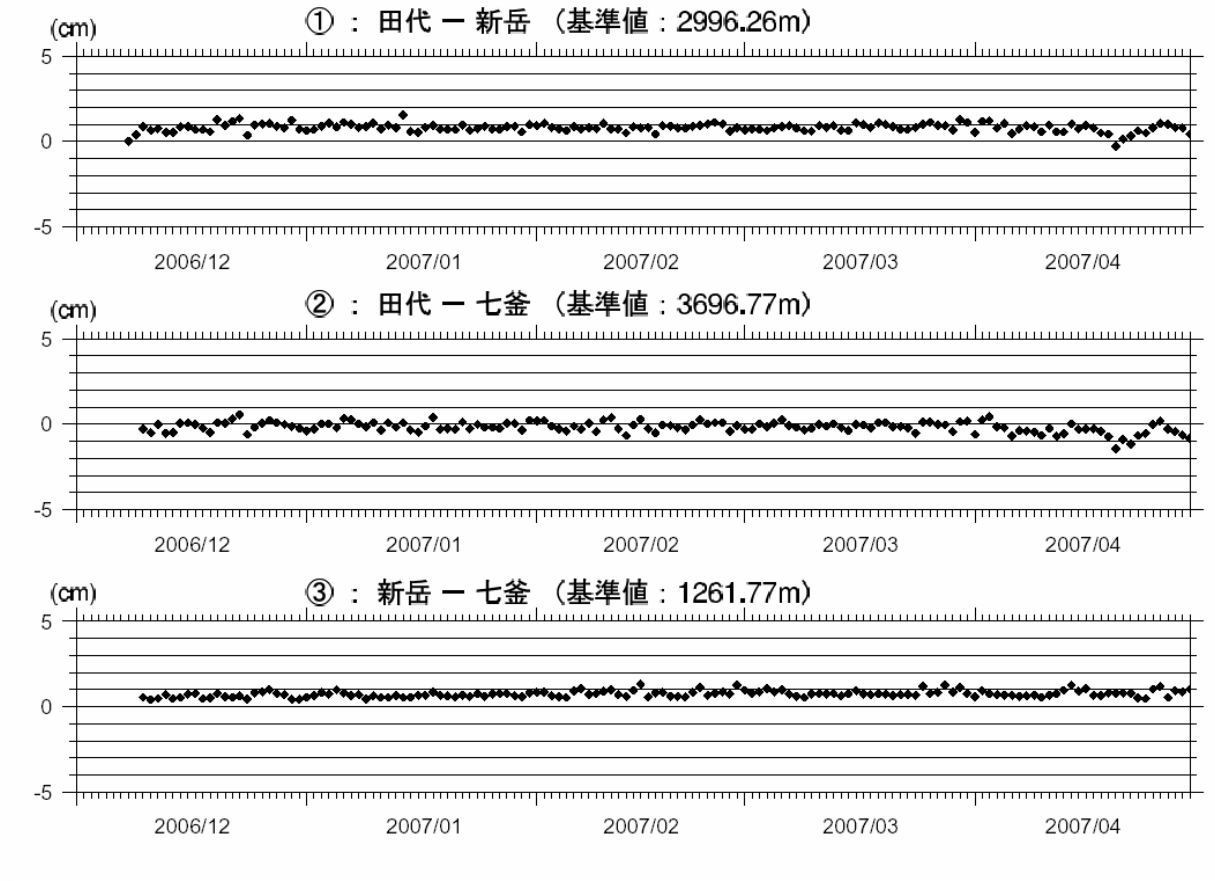


図４　口永良部島　GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月８日～2007 年４月 30 日)
火山活動に起因するような変化はありませんでした。

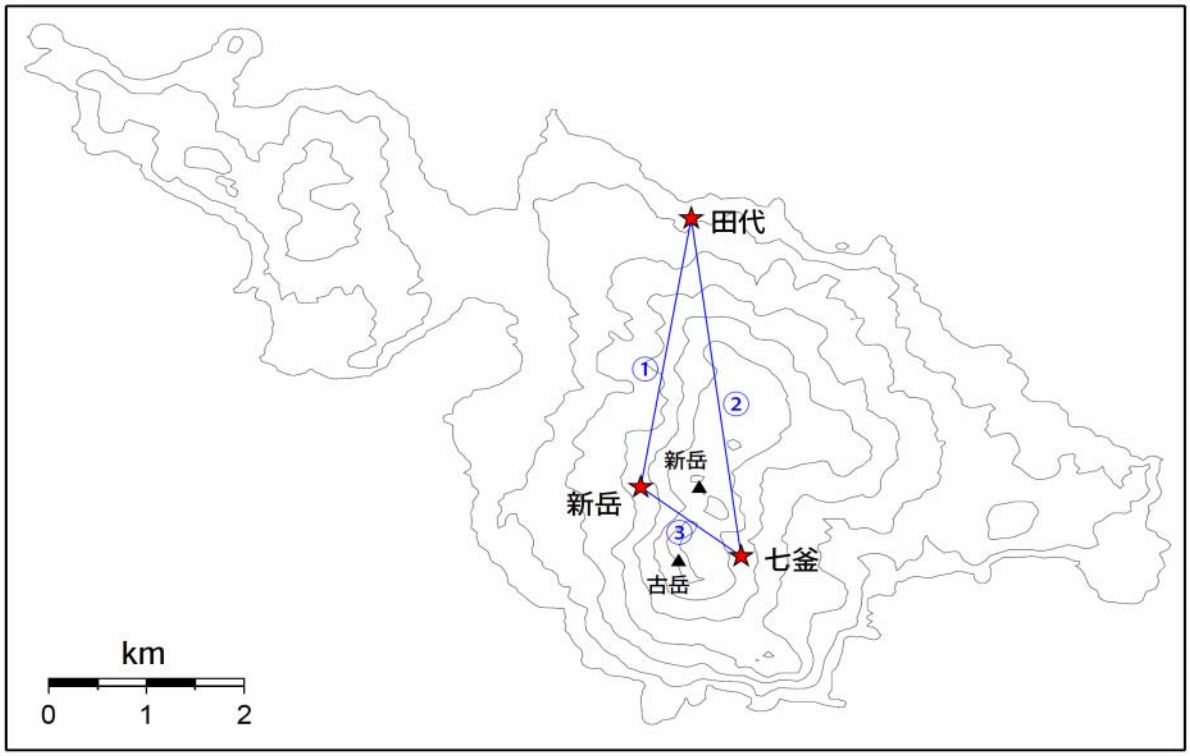


図５　口永良部島　GPS 連続観測点と基線番号